



さか い だ
坂井田

しげる
茂

いっ しん かい
一 津 会

津市教育施策に関わる 不易と流行の考えは

問 教育においては、どんなに社会が変わろうとも時代を越えて変わらない価値があるもの、すなわち不易と、社会と共に変えていく必要があるもの、すなわち流行に柔軟に対応していくこともまた、教育の課題であると考えられる。この「不易と流行」の考えを津市の教育の現況に照らし合わせ、教育施策の根幹となる不易の内容と流行としての施策の内容について問う。

答 教育施策における不易流行の考え方については、時代を越えて変えてはならない、あるいは変わらないものがあり、その上に時代の変化を取り入れていく、そういう教育改革のあり方が非常に大切だと考えている。

学校教育における不易の部分は、教育方針に示したように、子どもたちが自らの力で幸せな未来を開いていく確かな学力であり、このことは誰もが願う教育の姿だと考えている。

社会経済情勢の変化を踏まえながら、子どもたちや市民の皆様の声にしっかりと耳を傾け、社会に出たときの子どもたちの姿を心に描きながら、幅広い総合的な学力の向上に努めていく。

●その他の質疑・質問●

- 平成27年度教育方針について
- ・市民に開かれた教育施策とは
- ・「総合的な学力」とは
- ・土曜授業と土曜活動の違いは
- ・児童生徒の学力向上を目指し、授業改善の取り組みを組織的に推進する「学力向上推進担当」設置の考えは
- 学校内の危機管理について
- ・駐車場の安全管理および中学校の部活動に関して など



▲駐車場の拡張が望まれている
市内小学校の玄関前の様子



ほり ぐち じゅん や
堀 口 順 也

こうめいとう き いんだん
公明党議員団

核廃絶・平和への意識 啓発に市民参加の折鶴

問 「非核・平和都市宣言」の津市は毎年、平和を考える月間（7月15日～8月15日）にさまざまな行事を開催し、市民の皆さんに戦争の悲惨さと平和の尊さを訴えている。昨年の平和を考える市民のつどいには650人、津平和のための戦争展には1,717人が参加された。戦後70年の本年は、市民の皆さんで千羽鶴を折って、広島平和記念公園に奉納する取り組みを。

答 今後も戦争の悲惨さや平和の尊さを訴えていくには、さらなる市民への周知が必要と考えていることから、平和へのメッセージをホームページ等で市民に周知するとともに、市民から平和への祈りを込めた折鶴を募集し、平和記念式典に届けるなど、戦争を知らない若い世代や子どもたちに対する啓発を引き続き行っていく。

この折鶴については、貴重な平和のシンボルと考えていることから、広報などを通じ広く市民に呼び掛けを行うとともに、総合支所でも折鶴を受け取るようにするなどし、平和記念式典へ送りたいと考えている。



●その他の質疑・質問●

- 「囲碁」で日韓交流を
- 「バリアフリー映画」で視聴覚障がい者との交流を
- 「ビブリオバトル」で図書館利用促進と市民交流を
- 放課後児童クラブの入所改善に「放課後子ども教室」を
- 財政の見える化について
- 津市に「夜間中学」設置を
- 「徳」に重点を置く教育で学力向上を など



▲世界記憶遺産登録を目指している朝鮮通信使で日韓交流を